

会議名	第2回八名地域計画分科会		公開
日時	令和4年6月9日(木) 午後7時30分～午後9時30分	場所	一鍬田公民館 2階 会議室
出席者	(委員) 小林勝則、山本いづみ、井上こずえ、 滝川多嘉子、細田圭介		
	(事務局) 八名自治振興事務所：近藤所長、近藤主任		
欠席者	(委員) なし	傍聴者	なし
配布資料	次第、第2回八名地域協議会 地域自治区予算ワーキンググループ まとめ、概要版レイアウト(案)、わたしの八名		

議題・議事・発言等(要点記録)

1 開会

分科会長より挨拶を行った。

2 説明

(1) 実施計画の見直しについて

八名地域協議会の地域自治区予算ワーキンググループでの意見を基に、地域計画分科会にて内容の整理を行い、地域計画の見直しを行うため、第2回八名地域協議会での地域自治区予算ワーキンググループでの検討内容の振り返りを行った。

<安心・安全グループ>

主な意見として、災害時の情報手段と避難所について意見があがった。

災害時の主な情報手段として、デジタルは使えなくなるので、それ以外の方法が必要という話があがり、また、避難所としては八名小学校に集まるのは難しいので、各行政区の自主避難所について考えた。

⇒行政区毎にある自主防災組織で、避難できない家庭など地域の状況を把握しているので、そこに意見を聞く必要があると思う。

●災害時における指定避難所の運営について、市は避難所の開設と物資を届けるところまでしか出来ないと思われる。地域の役割分担も避難所の鍵を開ける人は決まっているが、避難後の役割分担(誘導班や物資班、救護班等)は決まっていないため、各行政区の自主防災会で連携をとりあって決めておく必要がある。そういった組織は必要である。

⇒そもそも避難する人も決まっていない。まずは避難所の現状を知る必要があるのではないかと。

⇒避難所は集まった人で運営をせざるを得なくなると思う。自主防災会は自分の行政区のことで手一杯となり、ボランティアへの指示等は誰も出せないのではないかと。

⇒ボランティアの窓口は福祉協議会が行うが、防災になってから1週間後くらいからじゃないと機能しないと思う。

●市外住民が災害時に、どこに行けば良いのかわからない。

●各自主防災会の連絡体制（物資の運搬等）と指定避難所の運営方法が重要と考える。自主防災組織間の連絡体制については、各自主防災組織の会長が集まる体制を整えることで良いと思う。

⇒自主防災会の役員も、毎年変わってしまうので、専門員を加えた体制とする必要はないかと。

⇒まずは専門員が必要かどうかを決め、必要となれば、役割や誰がやるのかなどを決めていかないといけない。

●自主防災会を中心として、避難時に必要な物リストなどをPRする必要がある。

●防犯カメラの設置については、行政課にて補助金制度が存在しており、行政区で設置することはできるが、管理を行政区で行うこと等条件がある。また、満額補助ではないため、地域自治区予算にて上乗せ補助といったことも考えられる。

●地域安全灯については、新規（LEDに限る）で設置する補助金制度はある。地域自治区予算としても、平成27年度から平成29年度で上乗せ補助を行ってきており、計画的に設置を進めてきた。これからは、過去に設置した地域安全灯についての保守に対する補助金を検討しても良いのではないかと。

⇒地域安全灯（LED）の更新に対する市の見解としては、各行政区からの声があれば新規で作成していくとのことで、現時点では補助金はない。

⇒地域安全灯を設置する時に、太陽光パネルがセットになった物を設置すれば、自己発電により電気代も節約になるし、災害時に停電となっても明かりが取れて良いと思う。電源のオンオフが出来れば尚良い。

●災害時のドローンの利用について、消防団と絡めることも検討してみてもどうか。

⇒航空制限などの縛りもあり、公式な免許が必要となる。近々、ドローンも登録制になる。所有者が明確にわかるよう法整備が進められている。

⇒既に消防本部にて使用しており、地域消防団でのニーズや利用ができるのか。維持管理費は高くないか。

⇒維持管理費は、ほぼ掛からない。本体も安い物であれば25万ほどで購入可能となる。免許取得の補助もある。

⇒ドローンの管理はどうするのか。消防団詰所で保管や地域協議会にて貸し出しという形では、災害時に使えないのではないかと。

⇒趣味にしている人と1回飛ばすのに技術料として5万円程度で災害協定を結んでおくのが良いと思う。

●災害時の通信手段として、企業や消防署でも使用しているIP電話を整備してはどうか。

⇒IP電話はインターネット回線を用いた電話なので、回線がパンクし使えなくなるといけない。行政区として、防災本部と連絡を取るのであれば、各集会施設に防災無線が設置されている。

⇒大災害の際に、ソフトバンクが無料で衛生を動かし、携帯電話が使えるようにしてくれたことがある。

●「でかけやすい八名に」については、八名地域の足を考える会にて検討を進めており、案ができた段階で地域協議会に情報が上がってくる。

<健やかグループ>

地域計画の見直しにより、「健康福祉」から「健やか」へと柱の名称が変わり、柱を支える目標も、「居場所がある八名に」と「健康で長生きできる八名に」になったが、繋がりがしっくりこないため、解説が必要と感じた。「健やか」をキーワードにいろいろ話し合いをし、問題点をあげ、次回の会合につながるよう進めた。

今回の議論では世話人の話がメインとなった。集まる場所も必要だが、集まる場所には世話人が必要である。しかし、世話人は高齢者しかいない。世話人は無償ではなく、有償としてはどうかといった意見が出た。他には、全国的なことではあるが、子供が少ないというのは「健やか」ではない不健全な状態である。若者は職場と職種がないため出て行ってしまふ。

⇒農業は個人経営が主だと思うが、若者を集め、業務分担をして農業をすることはできないか。

⇒農業法人をつくれればできる。現在は、農業法人に一般企業も農業に参入できるようにするという動きがある。

⇒ワンオーナー制度やクラウドファンディングといった方法もある。

⇒制度を活用している若手農家は新城にも居る。

⇒農業機械を個人で所有している人も多いが、みんなで共有できるような方法はないか。

⇒使いたい時期はみんな同じなので、組織化しないことには難しいのではないか。

⇒1次産業から6次産業までを全て自分でやっている人がいる。そこを分業化して、進めて行けば仕事は増やせる。

●自分のことは自分でやれる年齢を上げてもらう。世話をする人を他所から引っ張ってくるか、世話人がいるところに行くか。

●健康診断やがん検診などの利用促進として、開催案内の周知や健康の世話人を設ける、行政区別の成績表を作る。また、自宅と会場間に小型バスを走らせるなども考えられる。敬老会でも車いすの人も送迎可能となる。

⇒がん検診に行った際に行きは家族に送ってもらい、帰りの足がない方がいらっしまった。近隣の人がたまたまいらしたので帰ることができたが、足が確保できないとなかなか利用できない。

⇒免許を返納すると更に増える問題だと思う。

⇒一畝田地区では、役員が車を出して送迎を行っている。

⇒山吉田地区では、山吉田ふれあい交通という自家用有償旅客運送を行っており、鳳来南部地域自治区内と鳳来総合支所などで自由に乗り降りできる取り組みを行っている。

⇒タクシー派遣といったことも考えられる。

●病気になってしまった人の健やかとは、安心して暮らせることだと考える。安心するには病気の原因がわかる必要がある。

<豊かグループ>

「スマートIC」を取っかかりとして話し合いを行った。八名地域に産直場ができると良いという意見が出た。産直場と農家をどう繋げていくのか。特に、若手農家は周りとの繋がりが少ないと思うので、若手農家と直売場等とをつなげる役割があると良いと思う。それに伴い、人材バンクという意見も出た。企業や個人、技能を持っている人を集めて進めて行くのはどうかと、次回以降も検討を進めていく。他にもサーキット場についても上手く繋げていくことができないか検討を進めていく。また、歴史をめぐる散歩コース（宇利城や五葉城、車神社など）を設け、いかにお金を落としてもらうのか。また、人が来ることでのメリットデメリットといったことを話し合った。

⇒スマートICの活用を考えていく上で、土地の法規制等を確認しつつ進める必要がある。

⇒後日、スマートICに関して議員、富岡区長（東部、中部、西部）、八名自治振興事務所長とで話をする。地域振興策について、八名地区全体で動いていかなければいけないと考えているが、どういったメンバーで何を決めていかなければいけないか話をする。法規制といったことも見据えながら進めて行きたい。私としては、地域協議会会長やJA、商工会を含めて話しをしていきたいと考えている。

⇒過去に新城ICを作るといった時に、大手の企業も誘致を検討してくれていたが、法規制により工場は建てられても、従業員の借家や居宅が建てられず、話が流れてしまったことがある。

⇒仮に、1つの住宅団地を作ったとしても、同世代が一気に居住すると何十年立つと、同世代の高齢者ばかりになってしまう。

⇒八名の企業団地周辺に住宅団地を建てれば、庭野や東清水のなら人が入るのではないかな。

⇒横浜ゴムの駐車場ならば、住宅が建てれるようになっている。

⇒スマートIC周辺の農地は後継者不足と聞く、土地所有者と交渉し、使わせてもらうことも検討してはどうか。

⇒過去に下水道の整備について国交省と話をしたが、上手く話が進まず止まってしまった経緯がある。

●五葉湖について、どう行くのか聞かれることがある。スマートICと絡めて、NEXTCOへの要望として看板設置等を進めてみてはどうか。看板にQRコードを載せて、情報を取得する方法もある。

●スマートIC周辺での縁石の草刈について、人が多く訪れる場所となるので事業化の検討をしてみてもどうか。

⇒企業がPRも兼ねて草刈等、環境美化をしているところもある。そういった切り口で考えてみるのもありかと思う。

⇒八名地内を走る国・県・市道の草刈について、年にどれくらいの頻度で管理をしているのか。

⇒年に1回程度と思われる。

⇒去年の自治区予算にて、結論が出ていない事業で、市道の路肩の草刈があった。区長会で調整しながら行うのであれば、1行政区500m程度で希望調査を取る方法も良いと思う。昔は部落にて市道の草刈をやっていたが、高齢化や通行車両を傷つける危険もあり難しい。道路の環境整備として自治区予算に計上したい。

⇒市に任せっきりだと手が回らないので、美化という観点で住民に投げかけることはできないか。

⇒行政区に委託するという方法があると思う。

⇒既に土木課や教育委員会から行政区へ市道や史跡の管理として、委託を受けているところがある。行政区の中で草刈部隊を作り、そこに委託するのも考えられる。

●給食センターが出来ると八名地域での地産地消は難しくなるのではないか。

⇒八名地域ではなく、新城全体として地産地消を捉えれば良い。

⇒使われる食材はJAを通じたものとなるのか。

⇒学校単位で給食を作っていたときは、稀ではあるが、個人から仕入れることもあったと聞く。

⇒給食センターが出来ても、そういうルートを残してもらえれば良いと思う。

(2) 概要版のレイアウトについて

事務局より、概要版のレイアウト（案）について説明を行った。

レイアウト（案）をたたき台とし、検討を進めて行くこととした。

(3) 地域計画の資料編について

第1回八名地域計画分科会にて、資料編について「わたしの八名」を参考とすることとなり、「わたしの八名」の記念誌編集長（安形氏）より使用許可をいただいた旨、分科会長より報告があった。

3 その他

4 閉会

次回、第3回八名地域計画分科会開催について、令和4年7月8日（金）19時30分開催とした。